

---

# 2次元トリップ!

黒猫

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

2次元トリップ！

### 【Nコード】

N2819Z

### 【作者名】

黒猫

### 【あらすじ】

どこにでもいる普通の中学生、榊凛奈は「家庭教師ヒットマンREBORN!」が大好きなヲタク。

ある日、リボーンの本を読みながら歩いていて「リボーンの世界にいきたくないな！」なんて思いながら信号を渡っていると、信号無視のトラックがつつこんできた。

妙に騒がしいな、と思いながら起きてみると・・・  
ツナの家の前이었다。

## 主人公紹介（前書き）

今回は主人公紹介です。

次回から、本題に入っていきたいと思います。  
駄文ですが、見てくれると嬉しいです^^

## 主人公紹介

この小説は、「家庭教師ヒットマンREBORN!」の原作者と  
はいっさい関係がないものです。  
ご了承ください。

主人公・・・さかき榊 りんな凛奈

年齢・・・13歳（中学1年生）

身長/体重・・・153?/45?

性格

どこにでもいる普通の中学生。少年漫画が大好き。特にリボーン。

（ヲタク）

性格は明るいが、落ち込むと立ち直るのにやや時間がかかる。  
居合道や空手をならってる。そこそこ強い・・・かも。  
成績は中間で運動は得意。

## 主人公紹介（後書き）

次回から更新していきたいと思えます！

え、何ですかコレ？（前書き）

・・・書いていたのに全部消したという最悪な事態（泣）  
あれ、保存ってどうするんですたっけ。

まあ、とりあえず駄文ですがよろしくお願いします。

え、何ですかコレ？

『時間だよ。あと1分で支度しないと・・・ただじゃすまないよ？』

ピッ

携帯のアラームからなるアニメボイスを手でとめる。

黒髪の綺麗なロングヘアーが台無しな寝癖のつきかた。彼女は榊凛奈。

「起きますよ！雲雀さんでも、今日は土曜日だからあと1時間寝ても良いよね！」

バンッ

ドアが勢いよく開いて、凛奈の母、薫が入ってくる。

「凛奈！早く起きなさい！今日はリボーンの最新刊の発売日ですよっ？」

二度寝するところを阻止されたが、大事なことを忘れていた。

「そうだよ！今日はリボーンの発売日だよ！」

「だから、早くしないとなくなるわよ？」

「うん！」

目を輝かせながら着替えをする。

「それと凛奈。」

「何？」

「そのアラーム、音小さくしなさい。」

「え、何で？小さいと意味ないじゃん。」

「・・・その、恥ずかしいからよ。」

「え〜！雲雀さんの神ボイスだよ？イケボだよ？明日はツナにしよ  
うとおもっているのに！」

「・・・まあいいわ。早く準備しなさいね。」

「はい。」

薫はそういうと凜奈の部屋を出て行った。

「そっかあ、今日はリボーンの最新刊発売日だったね〜あはは〜」

だらしなく頬をゆるめ、ニヘラ〜と笑う。今の顔は結構危ない。

「っていつか、今何時だ？」

そういつて時計をみる。

「9時半か・・・。本屋は10時からだし、良い時間か。」

そうしているうちに服を着替え終えた。上は黒の長袖に胸元には赤いリボンがむすんでいる。

下はブルーのショートパンツに黒色のレギンスを履いている。

最後はブラウンのジャケットを羽織って準備完了。

もちろん髪セットも欠かせない。黒髪の腰まである長いロングヘアは横に結ばれていた。

ドアを開いて階段をダダダツと駆け上る。ちなみに凜奈の部屋は階段をあがってすぐ左のところにある。部屋はリボーンのポスターやパーカー、Tシャツだらけで、一般人（ヲタクじゃない人）が見たら、引かれるだろう。

もともと、少年漫画なんか読まない凜奈だったが友達に勧められてリポーンを読んでみると、そのおもしろさに心を奪われた。今ではBLも読めるほどだ。自称では「リポーンが無い世界では生きられない！」だ。

「じゃあ行つてきます!!」

「え、ご飯は？」

「いらない!リポーンが先よ!」

「はいはい、途中で倒れないようにね。」

「は〜い!行つてきま〜す!」

「いつてらっしやい。」

スニーカーを履いて玄関を飛び出る。すぐさまものすごいスピードで走る。

本屋まで20分ある距離をわずか10分で行った。今の時刻はちょうど10時。

「はぁ・・・はぁ、間に合ったぁ!」

乱れた呼吸を整えてから本屋に入る。

「いらっしやいませ〜。」

店員の高らかな声が響く。しかし、今は店員に会釈をしている場合ではない。凜奈は、少年漫画の棚に移動する。すると、ポップな絵柄で「家庭教師ヒットマンREBORN!最新刊!」とかかかっていた。

「あつたあつた!」

すぐに手に取りレジに持って行く。

「420円です。」

凜奈は持っていた500円を渡す。

「80円のおつりです。ありがとうございましたー。」

手に取ったとたん、走って本屋を出て行き、袋の中におさめられたリボン36巻をとる。

「うふふ〜！家につくまで我慢できないし読んじゃおう〜！」

しかし、これがいけなかった。後にありえない出来事が待っているなんて、このときは思いもしなかった。

そしてリボンを歩きながら読んでいた。

「うわっ、デイモン最悪！ツナの骨がボロボロじゃん！」

なんて呑気に歩いていく。そしてそのまま信号を渡る。まだ青だから轢かれる心配はない。

「よし、ツナ！デイモンを倒せ〜！」

そんなことを言いながら歩く。

「お嬢ちゃん！危ない！！」

漫画を読むことに必死だったため、そんな声に気がつかなかった。

やがてパパーッとといううるさい音が鳴り響いた後、気がついた。

「え．．．？」

トラックが凜奈めがけてつつこんでくる。

気がついたときにはもう、遅い。

凜奈はそのままトラックにはねられた。

(え．．．？何がおこっているの？)

自分ではわからなかった。ただわかっていたのは、通行人の「キヤー」という叫び声と、救急車のサイレン。そして、

自分から出ている血の色だけだった。

(あれ．．．。まだ信号青だよ？なのに何で．．．。あ、そっか信号無視ってやつ？あはは、私って馬鹿だな．．．。リボーンを歩きながら読んでいたから気がつかなかったんだ。)

そのまま宙を舞う。そしてそのまま地面にたたきつけられる。不思議と痛みは無かった。

(あゝあ、私、死ぬのかなあ．．．。せめて最後はさ、リボーンの世界に行きたかったよ。まあ無理なんだけどね．．．。)

そんな馬鹿げたことを思いながら、凜奈の意識はそこで途絶えた。

「・・・きろ、オイ。」

「ん・・・んうゝ？まだ眠いよゝ。」

「起きろっつてんだよ。」

「んゝ、うるさいなあ！今日は休みでしょう？もう少し寝たって・・・」

「だから起きろっつてんだよ！変質者！」

「ちよ、獄寺君。相手は女の子だよ。」

「はあ？変質者つて、え？あれ、獄寺と・・・ツナ？」

「！？え、君、何で俺たちのことしつてんの！？」

「10代目！下がっててください！他のファミリーの刺客かもしれ  
ません！」

「ええ！？そんなあ！」

なんと目の前にはツナと獄寺・・・そしてツナの家の前にいた。

え、何ですかコレ？（後書き）

ここまで読んでくれてありがとうございます。

本当は消える前までは長かったんです（笑）

でも消えて・・・

・・・正直いうと気力が・・・（泣）

なんで消えたんだよ！

っていうか、展開早いですね・・・。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2819z/>

---

2次元トリップ！

2011年12月10日12時52分発行